

## 『郵便バイク』 佐々木勢津子



令和2年10月 おもはん社刊

『郵便バイク』は私の初めての歌集です。歌集ができ  
て我が家に届けられたのは、里山が紅葉に染まった十月  
半ばのことでした。ぶ厚い束の中から取り急ぎ一冊を抜  
き取り、我が手にした時のあの感激が、二年半過ぎた今  
でも懐かしくよみがえってきます。

生来ものぐさで飽きっぽい私が、五十年近い歳月をコ  
スモスに抛り歌を詠み続けてきたこと、そして歌集まで  
作れたことを大袈裟でなく奇跡だと思っています。

生涯に一冊でも自分の歌集を持ちたいという私の夢を  
応援して下さい、出版に到るまで親身にご指導くださっ  
た岡崎康行先生は、令和三年十月あの世へ旅立たれてし  
まいました。いつの日か先生の奥つ城を訪ね改めてお礼  
を申し上げたいと思っています。

歌集を作った事で思いがけない交流も生まれました。  
歌集を読んでもくれた友人が、短歌って面白そうと歌を作  
り始めたのです。何の制約もない友の歌は大らかで面白  
く、ラインで歌交換を楽しんでいるこの頃です。

## ——歌集の著者から——

## 『亜鉛筆』 白井良子



令和2年11月 柘書房刊

新型コロナ禍の第一歌集出版でした。短歌教室に学び  
ながら細やかな思いを詠うその姿勢は変わりません。

出版後の去年とこの春、横浜みなとみらいギャラリー  
で古典に学ぶ書展があり亡き姉の親友が歌集の一首を書  
き作品として出展した。書を媒体として自分の歌を客観的  
に見る機会を与えられた。一年をかけてこの一首に向き  
合い文字を選び墨の濃淡に掠り筆に気持を込めて仕上げ  
た作品だ。書家の力量は言うまでもないがこの一首への  
共有する思いが一体化して感動するのだろう。歌の良き  
理解者だ。歌の持つ自浄作用の効果も思った。作品が今  
年も匠出版の「書21」に載るよう楽しんでしまっている。  
また書道教室の手本に使いたいとの話で想定外の広がり  
があり出版が少しお役に立っている。

八十歳の夏がくる。広々と水色の空が近づき山の頂が  
見えてくる、疲れて滑落しそうな歩きを黙々と頑張るあ  
の若い日の山登りを思い出す。第一歌集がコロナ禍の中  
継の歌で終わっていることが少し気になってきた。

## 『晩晴』 浦部晶夫



令和2年11月 不識書院刊

私は、若い時からの四十八年間の短歌をまとめて、『医の歌』として、二〇一六年に出版しました。そして、その後の五年余りの歌をまとめて『晩晴』という歌集を二〇二〇年に出版しました。私は医師として働きながら音楽鑑賞に楽しみを見出して生活して参りましたので、私の歌には医師としての歌と音楽に関係する歌が多く含まれています。そこで、音楽に関連する歌を集めて歌集を作ったら面白いのではないかと考え、『医の歌』と『晩晴』から音楽に関連する歌を抜き出して『楽に寄す』という歌集にまとめて二〇二二年に出版しました。比較的短期間に三冊の歌集を出すことになり、自分でも驚いています。歌集を出してみますと、コスモスの内外の多くの方々から励ましのお手紙を頂き、有難く思いました。全く知らない方からも御連絡を頂き、短歌を通じて御縁を感じる事が出来ました。また、「短歌」、「短歌研究」、「歌壇」などの雑誌に評が出たことも大変有難いことでした。反響があることはやはり嬉しいものです。

## ——歌集の著者から——

## 『菩提樹の精』 奥山祈梨子



令和2年11月 青磁社刊

初め、『菩提樹の精』は私には過ぎた歌集名だと思いましたが、今ではとても気に入っています。選者の木畑紀子様のお蔭で生まれた第一歌集です。学生時代の友人や勤務高校の同僚、親戚の者にも短歌を学んでいる事は告げていなかったため、本を贈って皆に驚かれました。今も、生徒たちには内緒です。趣味で始めたものが歌集として出版されたことで、責任をもって歌を詠まなければという心境になりました。

自分の歌集が出版できたとは何と幸せなことでしょう。本が完成するまでの過程は楽しい時でした。装幀の相談のために、様々な本のデザインや色見本などを見せてもらい決めかねていると、表紙の二色使いを提案して下さいました。白いカバーには、菩提樹のハート型の葉っぱの輪郭と葉脈が浮き出るように、ホットプリントされています。誌上での米田様をはじめ、歌の先輩や仲間からの貴重な批評や感想、励ましのお手紙などが嬉しく大切にファイルしてあります。